

地方は少子高齢化や過疎化などの様々な課題に直面し、デジタル技術を活用するニーズがある。**地方からデジタルの実装を進め、地方と都市の差を縮め、都市の活力と地方のゆとりの両方を享受できる「デジタル田園都市国家構想」の実現を図っていく。**

＜地方が抱える課題＞

少子高齢化

人口減少・過疎化

人手不足・しごと不足

医療や交通、教育への不安

多発する災害

＜これまでの取組＞

- 地域にある既存の資源・人材を発掘、活用した地方創生、地域の活性化
- 全国的な情報通信インフラの整備 等

＜これから目指す方向性＞

- 都市と地方とが物理的な距離を乗り越えてつながることを通じ、都市の資源・情報などを地方でも活用するとともに、地方の豊かさ・ゆとりを都市でも実感できる社会の実現を図る。
- 日本全国どこに住んでいても、多様な働き方や質の高い生活が実現できるよう、地方からデジタルの実装を進めることにより、都市と地方との差を縮め、地方の活性化を加速させる。
- デジタル技術を活用して様々な課題の解決を図り、全ての方がデジタル化のメリットを受けられることのできる環境の整備に向けた取り組みを進める。

＜構想の実現に向けた今後の論点＞

- ① 地方の課題を解決するためのデジタル実装
 - ・仕事の確保、産業の創出、交通・物流の確保、医療・福祉・教育の充実など、様々な面におけるセキュアなデジタルの実装による地方の課題解決
- ② デジタル人材の育成・確保
 - ・地方からデジタルの実装を進めるため、地方公共団体や地域におけるデジタル人材の育成・確保
- ③ 地方を支えるデジタル基盤の整備
 - ・地方におけるデジタルの実装に必要な、情報通信インフラの整備や行政のデジタル化の基盤整備
 - ・災害に強い防災情報基盤の整備
- ④ 誰一人取り残さない社会の実現
 - ・デジタル活用に不安のある高齢者や被災者等へのデジタル活用支援

（参考）【岸田総理 所信表明演説（抜粋）】

（略）第2の柱は、地方を活性化し、世界とつながる「デジタル田園都市国家構想」です。地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮めていきます。そのために、5Gや半導体、データセンターなど、デジタルインフラの整備を進めます。誰一人取り残さず、全ての方がデジタル化のメリットを享受できるように取り組みます。